

「おそめだぬき」

はたでら
畑寺のお話

はたでら おにばら こす 畑寺から鬼原へ越す、つななぎ峠という寂しい山道があります。

ある日の夕方、つななぎ峠を女の人が子どもを背負って上りか
けると、坂本のお寺のおもりをしていた「おそめさん」というおば
あさんが、手ぬぐいをかぶって立っていました。

子どもを背負った女の方は、

「おそめさん、おそめさん。」

と、何回も声をかけましたが、返事をしないので、不思議に思っ
てもう一度、

「おそめさん、おそめさん。」

と、声をかけてみました。しかし、返事がないので、帰りかけてい
ましたが、もう一度振り返って見ると、おそめさんの姿は見え
ないのです。女の方は恐ろしくなり、走って引き返しました。

そして、あくる日、坂本へ行き、おそめさんに会いました。

そして、

「おそめさん、昨日の日暮れにつななぎを通りよったんで。」

と聞いていたら、

「わたしやつななぎなんかへ行きやしませんよ。」

と言ったそうです。

それから、あれはおそめさんに化けた狸であつたと言って、この

話がうわさに上つてきました。

それ以来、「つななぎ峠には『おそめだぬき』が出る。」という言

い伝えが今も残っています。